

福島県における そばの振興について

福島県 農林水産部 水田畑作課





1 県産そばの生産状況

(1) 生産の推移

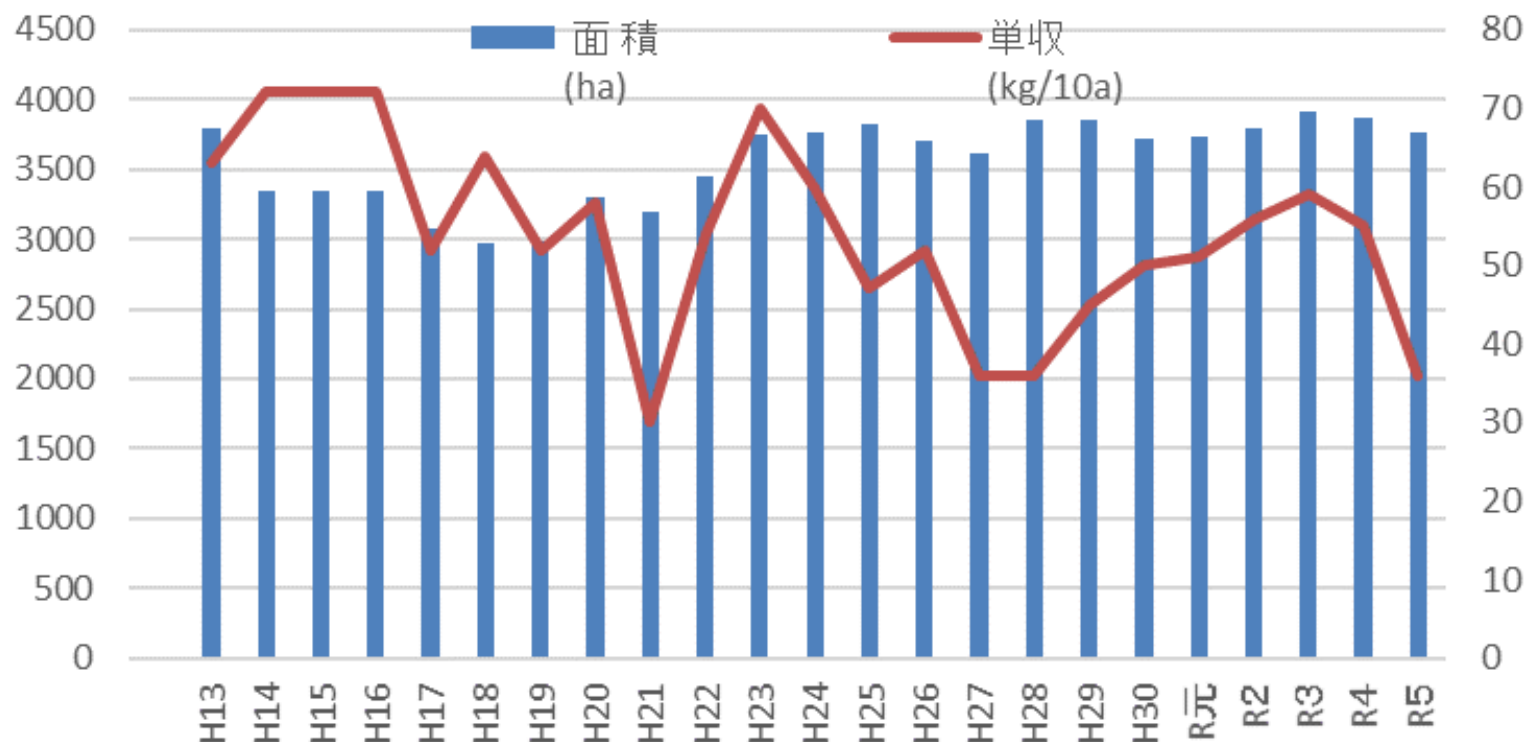
単位: ha

年度	全国面積	1位	2位	3位	4位	5位
5	66, 700	北海道 (24,900)	山形県 (5,760)	秋田県 (4,440)	長野県 (4,360)	福島県 (3,760)
4	65, 600	北海道 (24,000)	山形県 (5,570)	秋田県 (4,450)	長野県 (4,310)	福島県 (3,870)
3	65, 500	北海道 (24,300)	山形県 (5,430)	長野県 (4,460)	秋田県 (4,240)	福島県 (3,910)
2	66, 600	北海道 (25,700)	山形県 (5,320)	長野県 (4,600)	秋田県 (3,980)	福島県 (3,790)
元	65, 400	北海道 (25,200)	山形県 (5,260)	長野県 (4,410)	秋田県 (3,770)	福島県 (3,740)

1 県産そばの生産状況



(1) 生産の推移



- ・ 農業施策により作付面積が増減
平成23年以降は、3,600～3,900ha程度を推移
- ・ 単収の年次変動が大きい

1 県産そばの生産状況



福島県オリジナル品種

(2) 「会津のかおり」の状況

「会津のかおり」の誕生まで

- ・平成14年 会津地方の在来種を収集、個体・系統選抜を開始
- ・平成19年 品種登録の申請
- ・平成21年 品種登録

公募により「会津のかおり」と命名

会津のかおり



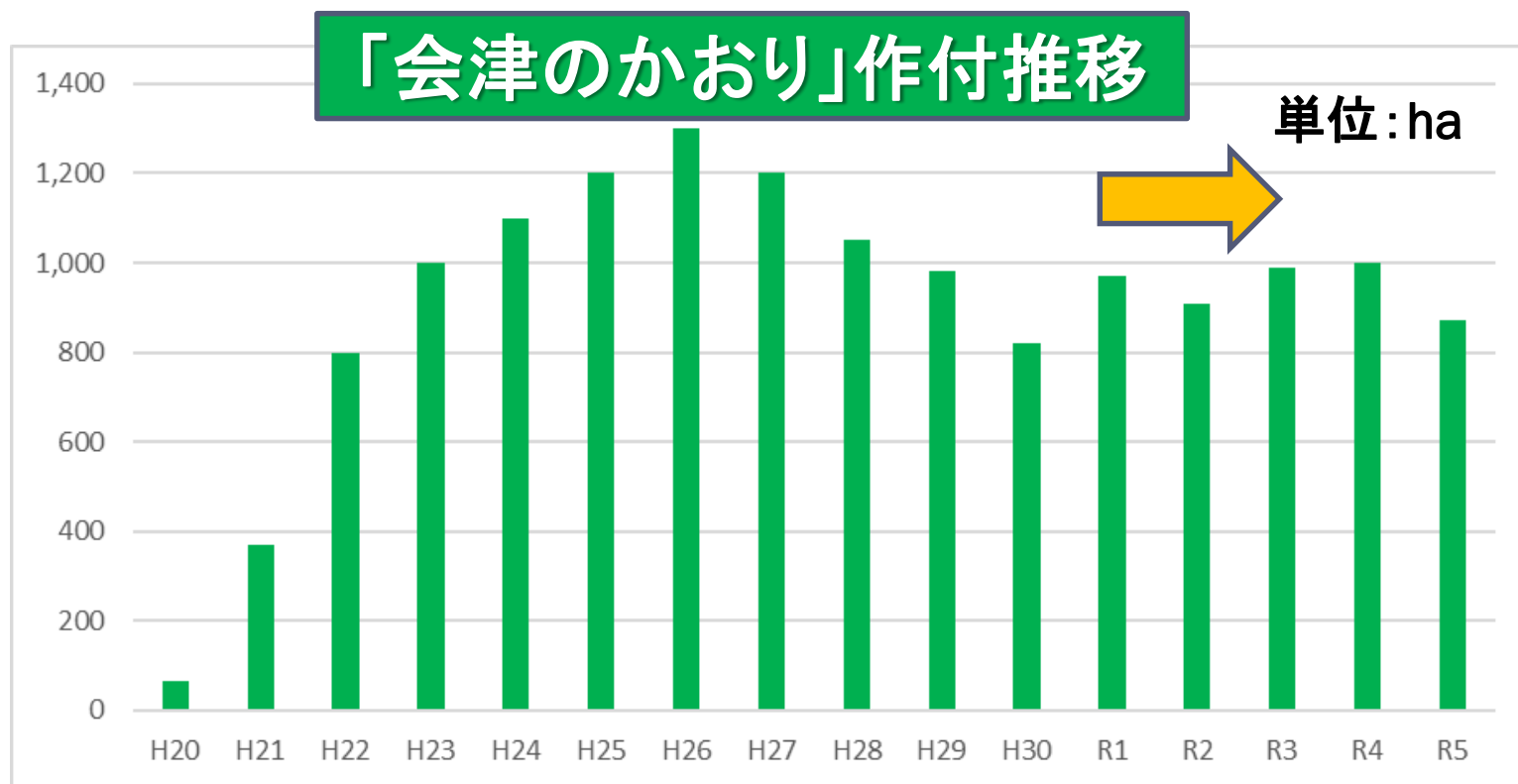
特徴

粒揃い・粒張りが良好で外観品質が良い
香りよく良食味、製麺加工性が高い

1 県産そばの生産状況



福島県オリジナル品種 (2) 「会津のかおり」の状況



種子の供給量から、近年の作付は900～1,000haと横ばい
会津のかおりと在来種の面積比は、 1 : 4

2 県産そばを取り巻く状況



主な課題

(1) 生産上の課題

(2) 販売上の課題

(3) 放射性物質の影響による課題



2 県産そばを取り巻く状況



(1) 生産上の課題

<課題>

- ・収量の年次変動が大きいため、以下の対策を行い、単収の増加を目指す。

低収の要因

- ・排水対策（転作作物での生産）
- ・連作による収量の低下
- ・栽培管理の不徹底（特に乾燥調製）



<対策>

- ・生産者への基本技術の指導
 - 農林事務所と関係機関・団体で構成する「**畑作物生産振興支援チーム**」を設置し、畑作物を支援
 - 地域の特色を生かした畑作物の生産・供給体制を構築するため県内16か所に**モデル地区**を設定
- ・**補助事業**による動機付け
 - ふくしまならではの畑作物産地づくり推進事業（県単）
そばの作業機械購入費等の1/2補助

2 県産そばを取り巻く状況



(1) 生産上の課題

<成果>

- ・令和4年度に設置した県のモデル地区等を中心に重点的に支援し、令和5年は実証ほにおいて、高温条件下においても単収維持。

HPで公開中！



南会津町中荒井地区、水無地区、田部地区

想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 実需者のニーズに合致した秋そばの早期出荷モデルを構築する。

取組成果

<一般的な播種時期と同等程度の収量を確保>

- 一般的な播種時期の栽培と同等程度の収量を確保。



表 令和5年度の概況

	播種時期 (月日)	坪刈収量 (kg/10a)	成熟期 (月日)
モデルほ場	6月20日	88.7	8月23日
作柄判定ほ(参考)	7月23日	70.5	10月1日

2 県産そばを取り巻く状況



(2) 販売上の課題

<課題>

- ・コロナ禍において、観光客の減少により観光地での販売力が低下したため、イベントやPR活動等により販売力向上を図る。

<対策>

- ・県産そばの品質安定
- ・「会津のかおり」「在来種」の共栄共存によるそばの推進
- ・各種イベントの開催、PR活動



(2) 販売上の課題

- ・ 県域組織「うつくしま蕎麦王国協議会」等の活動支援・連携により、県内外のそばファンへ魅力の発信、ファンの獲得
- ・ GAPによる付加価値づくりとイベントによる集客



第四回 うつくしま蕎麦王国フォーラム

蕎麦！ 福島の
課題はこれだ

in
白河

日時 平成30年
1月16日 (火)
午前10:30～15:30

●場 所 JA夢みなみせレモニープラザ
白河市登次塚29-1 ☎0247-24-5850

●昼食費 / 1,000円

●問合せ 福島県水田畑作課(佐藤・大野)
TEL024-521-7369

主催・福島県、うつくしま蕎麦王国協議会

後 援 白河市・JA全農福島・JA夢みなみ・一般社団法人 全穀塾・福島民報社・福島民友新聞社・NHK福島放送局・
福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送・テレビユー福島・ラジオ福島・エフエム福島

[illegible]



2 県産そばを取り巻く状況

(3) 放射性物質の影響による課題

<課題>

- ・原子力災害により避難を余儀なくされた地域におけるそばの作付再開のために、放射性物質吸収抑制対策を図る。

<対策>

- ・生産者に対する指導の徹底
- ・風評被害対策のための各種PR活動
- ・関係機関・団体との連携、周知

<成果>

- ・営農再開が進んでおり、そばの作付面積が増加。放射性物質検査（モニタリング）と合わせ、安全安心の取組が継続して行われている。

○玄そば

・色塗りされた市町村は、令和6年度の玄そばの検査結果を公表しています。



HPで公開中！



「もうかる」「誇れる」共に創る
福島のそば生産を
関係者と一緒に目指します

